令和８年度　三次市立八次小学校学校評価自己評価表（中間評価）

【学校教育目標】　　進んで学び　ともに伸びる　～　自主・協力・創造　～

令和８年 10 月１日

中期経営目標		短期経営目標	具体的な取組・方策	評価項目（評価指標）	評価 中間	評価 年度末	結果分析（○●）及び今後に向けた改善策（☆）
確かな学力	確かな学力の定着を図る	主体的･対話的で深い学びのある授業づくり	○誰もが安心して過ごせる学級づくり ・集団で話し合い、合意形成を図る学級活動の充実 ○他者との対話を取り入れた算数科の授業づくり ・ルーブリックの活用 ・ICT の活用	○児童アンケート「支え合うクラスになっている」（肯定的回答 80%以上） ○算数科の単元テスト（思考・判断・表現の項目で７割以上の児童 80%）	児童アンケート B 算数科の単元テスト B		○児童アンケート「支え合うクラスになっている」の項目では、肯定的回答が 86.6%となり、目標としていた 80%を上回った。集団での話し合いや合意形成を図る学級活動等を通して、互いの考えを伝え合ったり、認め合ったりする学級づくりを進めてきた成果が表れていると考えられる。 ●一方で、13.4%の児童は肯定的な回答をしていないことから、一人一人が学級の中で支え合いを実感できるよう、児童同士の関わりをさらに充実させていく必要がある。 ☆朝会や学級の時間を活用してトーキングゲームに取り組み、安心して自分の考えを伝えられる学級づくりを目指すとともに、相手の考えを受け入れたり、考えについて質問したりする「きく」力の向上を図る。 ●１学期末の単元末テストの結果は、１年生 83.7%、２年生 72.4%、３年生 69.4%、４年生 67.7%、５年生 59.7%、６年生 71.6%、全体としては 70.7%であった。思考・判断・表現の項目で 70%以上正答できた児童の割合は 70.7%と、約３割の児童が B 評価の基準に達していない。また、学年が上がるにつれて正答率が下がっている傾向が見られ、各学年で身に付けるべき学習の定着ができていないまま次の学年へ上がっている状況が伺える。 ☆児童用ルーブリックを活用した対話の場面を設定することで、対話の質の向上を図り、児童の思考の深まりを促す。また、職員研修で児童用ルーブリックの活用状況や活用場面について交流し、より効果的な活用方法を探求していく。
		主体的な学習習慣作り	○基礎･基本の定着と自ら設定した課題を追求する家庭学習 ・学び方指導 （家庭学習…家庭学習の必要性を指導する。） （自主学習・・・学年段階に応じて、復習、予習、興味があること、最後までやりきることを指導する。） ○児童が安心･安全に学習する環境を整える学習規律 ・時間を守る ・環境を整える	○家庭学習 「学年段階に応じて、自主学習に取り組んでいる」 「自分でやることを決めて取り組んでいる」（児童・教職員アンケート肯定的回答 80%以上） ○学習規律 「授業開始時刻に遅れない」 「授業開始時刻までに授業準備ができている」（児童・教職員アンケート肯定的回答 80%以上）	家庭学習 B 学習規律 B		【家庭学習】 ○各学年に応じた「家庭学習の手引き」を作成し、見通しをもって自主学習に取り組み始めた児童が多くなってきた。 ●「自分でやることを決めて自主学習に取り組んでいる」児童は平均 58.8%であった。まずは、家庭学習（宿題）の徹底に取り組む学年ほど、自主学習に取り組むことができなかった。 ☆全校児童の自主学習ノートを載せる Google ドライブ（共有ドライブ）作成したり、校舎内に掲示したりして、他の児童が様々な自主学習ノートを見て、自分の自主学習に役立てる。 【学習規律】 ○「授業開始時刻に遅れない」と肯定的回答をした児童・教職員が 80.0%であった。教室内に時計を２つ配置したり、口頭で周知したりすることで、時間を意識して行動する児童・教職員が増えてきた。 ●「授業開始時刻までに授業準備ができている」と肯定的回答をした児童・教職員が 62.6%であった。まずは、開始時刻に遅れないようにすることを焦点化したため、授業準備をする習慣化することができていなかった。 ☆授業開始前に準備するものを短い言葉や絵で示す、時間を守って準備できた場面を具体的に認めるなど、児童が自分で見通しをもって動けるようにする。
豊かな心の育成	主体的に行動する児童の育成	居心地のいい学校（学級）づくり	○気持ちのよいあいさつをする。 ・小中合同のあいさつ運動の実施 ・日々の振り返り ○いじめ見逃し０に取り組む。 ・いじめアンケートを学期に１回ずつ実施し、面談を行う。	○児童アンケート 「あいさつをしていますか」 「『おはようございます』、『こんにちは』を近所の人にいっていますか」（児童アンケート・i-check　肯定的回答 75%以上） ○児童アンケート 「クラスの中で、だれかが困っているとき、みんなで、その人を助けてあげよう、励ましてあげようとする雰囲気が、あなたのクラスにはありますか。」（いじめの見逃し０）	あいさつ B いじめ見逃し０ B		【気持ちのよいあいさつ】 ○本校の全校平均は 81.1%で、全国平均 76.9%を 4.2 ポイント上回っている。また、２年生 86%、３年生 80%、４年生 81%、５年生 81%、６年生 86%と、１年生を除く全学年で全国平均を上回っており、全体として児童のあいさつへの意識は比較的高い。 ●1 年生は 74.4%で全国平均 76.7%を下回っている。また、学校全体としては一定の成果が見られるものの、今後も全学年で気持ちのよいあいさつを意識して行えるよう、継続した取組が必要である。 ☆今後も、教職員が率先して気持ちのよいあいさつを行い、児童があいさつのよさを実感できるようにする。また、登下校時や校内でのあいさつを意識するよう継続して声かけを行うとともに、特に肯定的回答が低かった学年については、学級での指導や児童会活動等を通して、あいさつをすることの大切さを意識させ、日常的に進んであいさつできる児童の育成を図る。 【いじめ見逃し 0】 ○本校の全校平均は 86.6%と高く、３年生 88.6%、４年生 88.9%、５年生 87.0%、６年生 89.7%と、４学年で 87%以上の肯定的回答が得られている。また、６年生は 89.7%で全国平均 89.3%を上回っており、高学年を中心に、困っている友達を助けたり励ましたりする意識が育っている。児童会活動においても、「困っている人を積極的に助けよう」という目標を掲げ、全校で意識して取り組んだことが、こうした結果につながったと考えられる。 ●全校平均 86.6%は、全国平均 87.3%を 0.7 ポイント下回っている。また、2 年生 82.6%、4 年生 88.9%、5 年生 87.0%は全国平均を下回っており、学年によって肯定的回答に差が見られる。特に 2 年生は 82.6%と、全校平均を下回っているため、友達が困っているときに助けたり励ましたりする意識をさらに高める必要がある。 ☆今後も、児童が困ったことや悩みを安心して相談できるよう、日常の声かけや観察、定期的なアンケート等を通して児童の変化を早期に把握し、組織的な対応を進める。また、学級活動や道徳等を通して、友達の気持ちを考え、困っている友達に声をかけたり助けたりすることの大切さを継続して指導する。さらに、児童会活動においても、今年度取り組んだ「困っている人を積極的に助けよう」という目標を継続・発展させ、児童自身が互いに支え合う活動を進めることで、いじめを見逃さない学級・学校づくりを進める。
		基本的な生活習慣の確立	○学校や学級のきまりを守る。 ・ルールの必要性について考える場を設定する。 ・日々の振り返りを行う。 ・代表委員会など、児童会活動を充実させる。	○児童アンケート 「学校の規則や、クラスで話し合って決めたことを、守っていますか」（児童アンケート・i-check　肯定的回答 75%以上）	B		【学校や学級のきまりを守る】 ○本校の全校平均は 85.1%で、１年生 93.0%、２年生 95.7%、３年生 87.5%と、３学年で 87%以上の肯定的回答が得られている。また、1～3 年生では全国平均を上回っており、低・中学年を中心に、学校や学級のきまりを守ろうとする意識が育っている。 ●本校の全校平均 85.1%は、全国平均 88.9%を 3.8 ポイント下回っている。特に５年生は 67.5%と全国平均 87.3%を大きく下回っており、６年生も 82.1%で全国平均 87.0%を下回っている。高学年になるにつれて、きまりを守ることへの意識に課題が見られるため、きまりの意味や必要性を理解させ、自分で判断して行動できるようにすることが必要である。 ☆今後は、学校や学級のきまりについて、なぜそのきまりが必要なのかを児童と共有し、きまりを守ることの意味を理解できるようにする。また、特に肯定的回答が低かった高学年を中心に、学級での振り返りや日常の声かけを行い、児童自身がきまりを意識して行動できるようにする。教職員間でも指導する内容や基準を共有し、学校全体で一貫した指導を継続することで、きまりを守る意識の向上を図る。
信頼される学校づくり	「この学校で学ばせてよかった」と思われる学校づくり	保護者や地域からの関心･信頼度の向上	○積極的情報公開 ・学校ホームページの更新、保護者連絡ツール「tetoru」の活用 ○コミュニティ･スクールを生かした教育活動の充実 ・CS との連携を充実させる。	○保護者アンケート 積極的な情報発信・学校満足度 （肯定的回答 90%以上） ○学校教育活動への参加 （昨年度比で増加）	A		○保護者の情報発信に関するアンケートの肯定的回答は 90.8%であった。学校だよりや学年だよりを定期的に発行するとともに、学校ホームページはほぼ毎日更新し、その日にあったトピックスを情報発信している。 ○94.3%の児童が「学校が楽しい」と感じており、満足度は高いと考えられる。 ●昨年度に比べると 15%程度上昇したが、保護者アンケートの回収率は 65%程度にとどまっている。 ☆情報発信を行っていることを啓発し、保護者の関心を高める。 ○家庭科やクラブ活動など、地域の方々に多数協力していただいている。また、児童も馬洗川まつり、敬老会にそれぞれ 15～20 名参加することができた。 ☆今後の予定を CS 内で共有しながら、地域の方々によりたくさん教育活動に参加していただくとともに、地域行事への児童の参加も促していく。
			○働き方改革の推進 ・専科指導時間の効果的な運用、成績処理等の事務処理時間の定期的な確保	○時間外勤務時間の削減 （昨年度比平均３時間減小）	C		○時間外勤務時間については、昨年度より若干減少しているが、平均３時間の減少には至っていない。 ●時間外勤務時間が多い職員は固定化している。 ☆業務の精選、時間外勤務の削減につながる取組のアイデアの交流をするなど、働き方改革に係る研修を実施する。また、入校時に退校時刻の予定を申告し、タイムマネジメントに取り組む。

（自己評価）A:100≦（目標達成）　B:80≦（ほぼ達成）＜100　C:60≦（もう少しで達成）＜80　D:（未達成）＜60